

香川県庁舎東館の耐震化について

御指摘のとおり、県庁舎東館は、本県の重要な防災拠点施設ではありますが、現行の耐震基準を満たしておらず、その耐震化は喫緊の課題であります。

このため、今年度、耐震や建築、文化等の専門家の助言をいただきながら、東館の耐震改修の基本設計を実施し、建物や地盤の状況について詳細な調査を行うとともに、改修を行う範囲や方法などの技術的な課題について検討を進めてきたところであります。

来年度以降は、この検討結果を踏まえ、実施設計に着手し、工期の短縮やコストの縮減に十分留意しながら、文化的価値の保存にも配慮しつつ、詳細な工法の選定、実施工程や仮設計画の策定等を行った上で、高層棟及び低層棟の免震改修や高層棟塔屋部分の耐震補強、バルコニーの手摺の取替え、エレベーターなどの設備の耐震補強等の工事を実施していきたいと考えております。

また、東館の免震改修では、庁舎として使用しながらの工事となり制約が多い中で、建物と敷地境界との間に十分な余裕がなく、地震時に建物の横方向の揺れをできるだけ小さくすることなど施工者が有する固有の高度な免震技術が必要とされるとともに、早期耐震化のため事業期間を短縮することなどが求められます。

これらの課題に対応するため、事業の実施に当たっては、国の「官庁施設における耐震改修事業実施ガイドライン」でも積極的な導入を図ることとされており、他県の本庁舎等の免震改修においても実績のある設計・施工一括発注方式を採用したいと考えております。

さらに、東館の設備等につきましては、建築後50年以上が経過し、トイレの臭気対策や鋼製建具の隙間風対策など執務環境の改善の必要性が生じているほか、空調設備も更新時期を迎えているため、工期の短縮やコストの縮減等の観点から、これらの工事を耐震改修と同時期に実施することも、あわせて検討したいと考えております。

今後のスケジュールにつきましては、来年度中に耐震改修の実施設計に着手して、平成29年度の夏頃から工事を開始し、平成31年度には完了させたいと考えております。

(平成28年2月24日 自由民主党議員会の代表質問に対する知事答弁)